

## 論文審査の結果の要旨

氏名：中町信孝(なかもち のぶたか)

論文「アイニーとその年代記—マムルーク朝ウラマーの歴史叙述と社会的実践—」は、マムルーク朝(1250–1517年)の歴史家アイニー(1360–1451年)をとりあげ、アラブ諸国、トルコ、ヨーロッパの図書館に所蔵されている、その年代記の写本を徹底的に調査・収集・分析することによって、アイニーの歴史叙述行為が彼の政治的・社会的活動とどのように関わっていたのかを検討する。本論文で筆者が用いたのは伝統的なアラビア語文献学的手法であるが、その論証の仕方は綿密で手堅く、マムルーク朝期のエジプトを代表する歴史家の著作について多くの新事実を明らかにすることができたといえよう。

第1章「アイニーの経歴」では、同時代のアラビア語年代記や人名辞典の情報とアイニー自身の著作にある自伝的記述とをつき合わせることによって、アイニーの出身家系と家族、アナトリアからエジプトへと広がる学問遍歴、アラビア語に加えてトルコ語の資質もあったことを生かした政治的キャリアについて分析している。第2章「アイニーの著作」では、アイニーに帰せられる伝承学、法学、歴史学の著作について、同時代史料中の記述や現存写本に付された奥付などから、その全体像をはじめて明らかにした。第3章「先行史料の引用」では、ヒジュラ暦728年の記述をサンプルにとりあげ、アイニーの年代記として知られる8点の写本を綿密に比較検討することによって、その情報源をつきとめる作業を行っている。続く第4章「同時代の叙述」では、ヒジュラ暦801年と816年の記述をサンプルとしてとりあげ、アイニーの写本と同時代の歴史家イブン・ハジャールおよびマクリーズィーの年代記とを比較することによって、アイニー年代記『満月』が3者の作品のなかではもっとも古い著作であることを明らかにした。最後の第5章「アイニーの歴史叙述の全体像」では、アイニーに帰せられた諸年代記の成立年代を同定するとともに、マムルーク朝スルタンへの庇護の下に、市場監督官を勤めたり、スルタンの御前で自著を読み上げるなどの「社会的実践」についても言及している。

以上は、アイニーの年代記について、その写本史料を網羅的に収集し、それらを文献学的手法によって綿密に分析した成果であり、わが国はもとより、世界的にみても重要な結論がいくつも導き出されている。ただ筆者が述べる「社会的実践」とは何なのか、また詳細な文献学的手法を今後の歴史研究にどう生かしていったらいいのかなど、検討すべき課題はいくつも残されている。しかしアラビア語写本を綿密に分析した成果は今後のマムルーク朝史研究の礎となるものであり、博士(文学)論文として十分な評価に値する。